
A.O.G -Agent Of God- ~ 代行者は旋律を奏でし者《おに》 ~

反省猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

A・O・G - Agent Of God - 〈代行者は旋律を奏でし者おに〉

【Nコード】

N7192Z

【作者名】

反省猫

【あらすじ】

今度の主人公はいきなり死亡！？ そんなある意味ついてない主人公が今回は音楽をテーマに軽音部の仲間達やいろいろな作品とクロソオーバーする物語。いざ、開演です！

この作品はけいおん！の二次創作小説です。

オリ主最強・チート・バグ・原作ブレイク・キャラ崩壊苦手な方にはおすすめできません。

それでもいいよという方は、暇つぶしにどうぞ！

第0楽章 『邂逅そしていきなり死亡!?' 1/5改訂版(前書き)

という事で今回は、けいおん!など色々な作品とクロスします。
そしてまた新たな主人公が物語の渦中へと身を投げます。
それでは新たな話の幕開けです! どうぞ

第0楽章 『邂逅そしていきなり死亡!？』

1 / 5 改訂版

??

『問おう、貴方が私のマスターか?』

桃李

「…なっ
…な」

俺は、某聖杯戦争でお馴染みのある場面に直面しているのだが……

??

『うん? 聞こえなかったか? 貴方が私のマスターか?』

桃李

「なんで……なんで……」

本来ならそこに【騎士王】が登場する場面で……

桃李

「なんで、喋るギターなんだよおおお!!!」

俺の目の前で問いかけている存在……【騎士王】という英霊とかではなく……喋るエレキギターだった。

遡ること、数分前

何はともあれとりあえず、俺の自己紹介をしようか。

俺の名前は、やまびこ山彦 とうり桃李。

市立二見学園に通う普通の男子高生だ。

俺の家は代々、多聞神社の神主をしている。

なので、将来はこの神主になるんだろうと思っている。

だが、たまに俺の将来これでいいのかと思ってたりもする。

まあ他に夢もないし先の事はわからないが……。

横道に逸れたな。

俺が学校から帰ると親父が俺に倉庫の整理を頼まれたので、それをしづしづ了承し、

倉庫の中を片付けていると、いきなり見知らぬいや聞き知らぬといったほうがいいか

そう声が倉庫中に響いた。

???

「誰か 私の声が 聞こえる者は いないのか？」

桃李

「ん?? 誰だ今の声？」

桃李が倉庫の中を探すがそれらしい人物は見当たらないというか

今ここにいるのは自分だけのはずだが…と首を傾けて考えていると

また声がする。

???

「私の声が聞こえるのか？ 私はここだ…」

よくよく聞いてみるとあるアニメのキャラの声に似ている。

桃李

「（えーと…なんだったかな…あ、そうだ！ F a t eのセイバーの声に似てるんだ！）」

そう思い出した瞬間、ある光景を思い出す。倉庫、川 ヴォイス、倉庫の床には魔法陣らしきもの、

桃李

「（これはもしかして、もしかするとセイバー出現フラグキタ（
。。。）！って状況じゃないか？）」

俺はその事に心踊りながら声のする方へ向かうとそこには

かなり古い青いエレキギターが置いてあった。

桃李

「アルエー、セイバーは？」

桃李がセイバーの姿を探すが見当たらない。

桃李

「…やはり、そうだよな。現実には起こらないよね。となるとあん

な幻聴が聴こえるなんて
俺疲れてるのかな？」

桃李がガツカリしていると、またあの声がする。

??

「ん？何を落胆しておるのだ？私ならここにいてるぞ？」

桃李

「……って、どこにも居ないじゃないか！」

桃李がそう叫ぶと先ほどの声が呆れた感じで、

??

「バカ者、お前の目の前にいるだろ！」

桃李

「目の前って… え？ え？ ええええええええええ！！」

桃李は驚いた。先ほどの古いギターからあの声が聴こえてくるのだ。

??

「やつと気付いたか、バカ者。まあいい、それでは問おう、お前がマスター
私の奏者か？」

そして回想が終わり最初の所に戻る。

??

「まあ、この姿は先代の趣味だな。気にするな。私の名前はヴァイシュラヴァナという。」

こつちでは毘沙門や多聞とえばわかりやすいか。……それでお前の名前は？」

桃李

「山彦 桃李だ。多聞って……。もしかして家の神社に祀ってあるあの？」

多聞

「ああ、その通りだ。といっても私は分身のほうだがな」

桃李

「分身って……。ちょっと待てよ。今すごい状況なんじゃ……」

多聞

「やっとわかったのか、一応神だ。崇めてもいいぞ」

桃李

「まあ、それは置いとくとしてそれよりさっき言ってた奏者ってなんだ？」

多聞

「奏者というのは、悪しきモノや不浄なるモノを清めの音で浄化する者の総称だ」

桃李

「なるほど、それはわかったが俺が奏者って間違いじゃないのか？」

多聞

「間違いじゃないぞ。お前からは奏者の力が出ている。まあしかし、

まだちゃんと覚醒してないのだろうな。物凄くわずかな量の力だ。
まあそれは今後おいおい覚醒するだろうさ」

桃李

「ふーん、俺の中にね。と言われてもまったく実感ないんだけどな」

多聞

「とりあえず、私を弾いてみる。そうすれば分かるさ」

桃李

「お前を？ とりあえず弾いてみるか…」

桃李は半信半疑だったが、多聞の言葉を信じ、多聞を弾いてみる事にした。

すると

ギギギギ…ブチン！！

ギターの絃が切れてしまった。

多聞

「な、なんだと！？」

多聞は絃が切れた事がよほどショックだったようで大声で叫んだ。

桃李はヤレヤレといった感じで

桃李

「…まあ古かったからな。仕方ない新しい絃に張り替えてやるよ」

桃李がそう多聞に言つと

多聞

「すまない。かなりの年月ここに置かれてたんで自分が古くなったのを忘れてた…」

桃李は多聞を抱え倉庫から出ようとした瞬間、

ブサツ！！

桃李

「…え？」

多聞

「なっ…」

桃李はゆっくりと自分の心臓辺りを見ると蛸の足のような軟体動物の…俗に触手が、

桃李の心臓部と多聞を貫通していた。

桃李はギギギつと音がするような感じで後ろを振り返ると、

白いハットに丸型レンズのサングラスをかけた痩せ細った感じの男がいつの間にか桃李の後ろに立っている。

よく見ると男の右腕は人間だったが、左腕は先程みた触手になっており、

これをやった犯人というがすぐにわかった。

男は口元に笑みを浮かべ、

男

「悪いな、奏者は一人残らず消せと俺の上司が言ったんでな」

桃李

「お、お前は一体……」

男

「これから死んでいくやつに名乗り理由はねえーよ。じゃーな、奏者と想具」

ズシャズシャズシャズシャ !!! ブシャアアアア
アア!!!!

そういうと桃李を触手で滅多刺しにし、桃李の全身から血が一斉に吹き出し、

多聞

「桃李！ き、貴様あ！ ……まさか奴らの！」

バキッ！！

多聞も真つ二つにされ、地面に落ちていった。

ドサッ！！

桃李はそのまま意識を失いその場に力なく倒れた。倉庫の床は血で真っ赤になっていた。

男は桃李と多聞に背を向け、

男

「さて、次はあのセカイへ行くとするか。クックック」

男を低い笑い声を残しその場から一瞬のうちに消えた。

それから1分後、不思議な事が起きた。二人が倒れた場所に無数の光が現れ、

力尽きた桃李と真つ二つにされた多聞を無数の光が包み込みんでその場から消えたのだ。

一体、二人はどこに連れて行かれたのだろうか…それは次回、話すでしょう。

t o b e c o n t i n u e d

第0楽章 『邂逅そしていきなり死亡!?!』

1/5改訂版(後書き)

作者・桃李「ということで、作者と桃李のあとトーーーーーク!?!」

作者「という事で、始めました」『A・O・G - Agent
Of God - 〓代行者は旋律を奏でし者〓
ですが」

桃李「ちよつと待て、なんでいきなり俺死んでんの!?!」

作者「それはね、君にある能力を付加する為だよ」

桃李「なるほど……って納得できるか!?!」

作者「まあまあ、落ち着いて」

桃李「落ち着けるかつつの! 死んでるんだよ俺は!?!」

作者「まあ、怒っている主人公を横に置いて」

桃李「置いとくなよ!?!」

作者「主人公の簡単プロフィールのこゝナ、という事で、
まずは主人公の『山彦 桃李』の簡単なプロフィールを」

〓〓プロフィール?〓〓

名前: 山彦 桃李

年齢：17歳

趣味：漫画 ゲーム ギター

好きな物：カレー

嫌いな物：外道 グリーンピース

見た目：黒髪で肩まで伸びている髪を後ろでゴムを使い束ねている。
目は切れ長。顔はイケメンの部類に入る（上の中）

CVイメージ：宮野 真守（DOG DAYSのシンク・イズミ役）

あるセカイの高校に通う17歳の青年。性格は、面倒見が良く、

いろんな人に好かれる。恋愛方面は普通。鈍くもないし鋭くもない。

中学のときからギターをやっており、結構な腕前。

両親は、海外に出張中。

作者「プロフィール完全版は今度書きます。多聞のプロフィールもその時に。」

ということ、次回予告よろしく」

桃李「謎の男により殺された俺と真つ二つにされた多聞はとある人物により復活するが、その人物から

驚きべき提案をされることになる次回、第1楽章 『代行者は奏でし者』」

作者「という事で、次回またお会いしましょう」

作者・桃李

「ではまたな」

作者

「ご意見・ご感想お待ちしております」

第1話 『代行者は奏でし者』（前書き）

いきなり死んだ主人公桃李と多聞の二人。謎の光によりどこかに飛ばされたが……そこは一体。

というかバレバレの展開ですね（@_@・）
それでは第1楽章をご覧ください。どうぞ

第1話 『代行者は奏でし者』

??

「桃李… 桃李…」

誰かが俺を呼ぶ声が聞こえる。

俺は目を開ける事にした。

桃李

「うん……?? ここは……一体？ 君は誰？」

桃李が目覚めると見知らぬ白い空間と見知らぬ黒髪の女性がいた。

??

「ああ、この姿では初めてだったな、私は 多聞だ」

多聞と名乗った女性の容姿は、まんまFateのセイバー【英霊
アーサーⅡペンドラゴン】の髪の色を黒くし、

肌の色も小麦色になったような感じだ。はっきりにって美人である。

桃李

「多聞だって!？」

桃李が自分の容姿を驚いた事が気に入らなかったのか。

多聞

「むっ… そんなに驚くことはないだろう!」

多聞は頬を膨らませ怒っているがその仕草が、

桃李

「（か、可愛い／＼／＼）」

そう思った瞬間、桃李の顔が赤くなる。

それを見た多聞は訝しげに桃李を見ると

多聞

「どうしたんだ？ いきなり顔を赤くして？」

桃李

「いやー、多聞の仕草があまりにも可愛いかっ……あ」

桃李がしまったという顔をする

多聞が頬をつつすら赤く染め顔を背け、

多聞

「か、可愛いなどと／＼／」

桃李

「（いや、真剣可愛いんですけど、お持ち帰りしていい？ あ、やっぱだめ）」

などを考えていると横から

??

「あのー、そろそろ話いいですか？」

そう言つて、二人の間に金髪の女性が話に割つて入った。

桃李

「うわぁー!!」

多聞

「お、脅かさないでください、ル力様!？」

二人が慌てたのを見て金髪の女性は微笑むと

??

「うふふ。はじめまして山彦 桃李さん。私は第1級多世界管理者
ル力〓ツヴァイト〓ルミナスと申します」

桃李

「えーと…」

ル力

「ふふ、そうですね。貴方のところで言うところの“神”ですかね。そんな存在です」

それを聞いて桃李が驚く。

桃李

「か、神!？」

ル力

「ふふふ、はい」

だ」

桃李

「それでかつ！ おかしいと思ったわ、死んだのならなぜ今ここにいるんだと」

ルカ

「それでここからが本題なのですが、
桃李さん、神の代行者に
ありませんか？」

桃李

「はい？」

それから俺はルカさんとやらに神の代行者がなんなのかを説明してもらった。

神の代行者については、A・O・Gシリーズの真剣で代行者に恋しなさい！参照で

桃李

「なるほどな、そう言えば俺を殺した奴は一体何者なんだ？」

ルカ

「それは、私たちの敵のネガ・マリスに生み出されし“怠惰”の使徒アケディアⅡSⅡベルフェゴール

の部下の一人フォルネウスそれがやつの正体です」

桃李

「フォルネウス…。やつは今どこに？」

桃李が真剣な表情でルカに聞くと

ルカ

「はい、やつは今そのセカイの奏者を狙いにそのセカイに向かっています」

桃李

「そのセカイとは？」

ルカ

「【けいおん！】というアニメの設定によく似たセカイと言えいいでしょうか」

桃李

「【けいおん！】？ どんなのかは知らないけどとりあえず代行者の件受けるよ。」

で、俺はそのセカイに行けばいいのか？」

ルカ

「はい、そうです。では行くに当たって希望する能力を言ってください」

桃李はルカからそう言われ、考えると

桃李

「うーん、そうだな」

桃李が希望した能力は以下のとおり

？自分の中にある奏者の力の覚醒

？音関連の技や術。

？仮面ライダー響鬼のような鬼化（それにより音撃が可能に）

？身体能力成長限界無し（どこまでも鍛え上げることができる。しかし、体の感じは細マッチョ的な感じで）

？音楽の才能

桃李

「これだけでいいです」

ルカ

「なるほど、その能力+あなたにはある能力が追加されます」

桃李

「ある能力？」

ルカ

「能力名は 直死の魔眼」

それを聞いて桃李はびっくりする。

【直死の魔眼】

ありとあらゆるものには発生した瞬間から予め決まっている崩壊の時期つまり死期が内包されている。
そしてこの眼を持ったものはその“死”という情報を【線】という形で視ることができる。

その為、外的要因や魔術的要因も全て無視してありとあらゆる対象を殺す事ができるということだ。

桃李

「なっ……なんでそんな力が！」

ルカ

「一度死んで復活した時に貴方は無意識的に死を理解してしまったのでしょうか」

桃李

「俺はこんな力いらないぞ！」

ルカ

「……ごめんなさい、その力は外すことは出来ないの。その代わりに自分の判断でON/OFF出来るようにしておきますね」

ルカが申し訳なさそうにそう言うと桃李がしぶしぶ了承する。

桃李

「……わかった。そうしてくれると助かる」

ルカ

「では、能力を付加しますね（一応、七夜の体術も使えるようにしておこうかしら。」

何かがあつた時のために。それと魅力を最高値まで上げておきましよう。

多少の償いとして……)」

そう言うところルカは目を閉じ、呪文を言い始めるとその瞬間、桃李の体が一瞬輝き、やがて収まった。

ルカ

「はい、これで能力が付加されました。あとは希望の武器とかある？」

桃李

「ん〜、じゃ、多聞を直してくれ。絃もずっと張り替えなくてもOKな状態の全身新品で

見た目はそうだな〜Beast WMD SOBに変更してくれ。念じれば大剣になるようにしてください。

あ、多聞はそれでいいよな？」

多聞

「問題ない。お前が私のマスターだ。好きにしてくれていい。できたら私がそれに

力を入れるだけだ」

ルカ

「分かりました。では、始めます」

そう言うところ再度目を閉じ、まっふたつになったギターのの上に手を置き、また違う呪文を唱え始めた。

するとギターが光り出し、新たな姿へと変貌した。

ギターのイメージは、“Beast WMD SOB”で検索すれば出てくると思うのでそれ参照で。

ギターの色は前と同じく青に黒い線の模様が入っている。

桃李

「おお、やっぱりいいな、ほしかったんだよね、これ」

桃李がギターに顔をつけてすりすりしていると

多聞

「喜んでいる所悪いが、私がそれに乗り移るので少し離れてくれな
いか？」

桃李

「え？ 力を入れるってそういうことなのか？」

多聞

「ああ、そのほうが対応できることもあるしな。では行くぞ」

そう言うと多聞は真言を唱え始め、次の瞬間ギターに吸い込まれた。

桃李

「なっ……」

多聞 ギター

「ふう、これで準備は完了した。とりあえず、桃李。力の確認とす
ぐ技使えるように」

練習するぞ」

桃李

「わかった。じゃ、試させてもらっけどここ使っていいのルカさん？」

桃李の質問にルカは笑顔で

ルカ

「はい、大丈夫です。どんどん試してみてください」

こうして桃李と多聞は力と技の使い方を試すのだった。

5時間後

桃李

「ふう。一通り試したな。後はあっちで調整するか」

多聞

「ああ、それにしても驚いたぞ。まさか5時間でここまで使いこなせるとは…。」

普通なら1日はかかるぞ？」

桃李

「俺って天才って事？」

多聞

「バカ者、調子に乗るな！ お前なんかまだまだひよつこだ。
真の奏者になるまで私がみっちり鍛えてやる」

それを聞いて桃李はうへえと嫌な顔をする。

桃李

「真剣かよ。でも、真面目にやっとかないとまた死ぬの嫌だしな
」

ルカ

「ああ、そうでした。一つ言つの忘れてました。

桃李さんはもう死にませんよ。さっき不死属性も追加したときま
したから」

それを聞いて桃李は喜ぶ。

桃李

「おお！ それは嬉しい。ならどんな攻撃を受けても死なないんだ
な？」

ルカ

「死にはしませんが、攻撃されたら傷は負うので死にそうになる攻
撃喰らうと

かなりの激痛ですよ」

桃李

「ええええ…真剣かよ。まあ死なないだけマシか」

多聞

「今度は避けるや防御の修練もしないとな」

桃李

「ああ、……さてとそれじゃ行きますかその【けいおん！】に似たセカイに」

多聞

「うむ！」

ルカ

「では、ゲート開きますね」

そう言うのとルカが地面に手をかざすと桃李たちの目の前に大きな魔方阵が現れる。

桃李

「じゃ、行ってくるね、ルカさん」

桃李は多聞の入ったケースを担ぎ、左手をスチャッと挙げ、ゲートの中に入った。

ルカ

「いつてらっしゃーい」

ルカは微笑みながら片手を振り、桃李を見送ったのだった。

continued……

to be

第1話 『代行者は奏でし者』（後書き）

作者・桃李「ということで、作者と桃李のあとトーーーーーク!!」

作者「という事で桃李も代行者となり、多聞も新たな姿で復活しました」

桃李「次回からけいおん!のキャラとか出てくるのか?」

作者「あーでできますよ。唯と憂とか」

桃李「ほー。俺と多聞どう平沢姉妹と関わるのかは次回乞うご期待
って感じか?」

作者「そうなりますね」

多聞「それはそうとそろそろ次回予告だ、桃李」

桃李「けいおん!に似たセカイに到着した俺たちは、ある出来事を
きっかけに平沢姉妹と出会う。

しかし、奏者の素質を持つ唯を狙い俺を殺した相手フォルネ
ウスが唯に襲いかかる!

次回 第2楽章 『奏でる鬼』でまた会おう!

作者「感想・ご意見お待ちしております」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7192z/>

A.O.G -Agent Of God- ~ 代行者は旋律を奏でし者《おに》 ~

2012年1月5日21時49分発行